

海域の概要

本湾は、牡鹿半島の付け根の石巻市と女川町にまたがる内海で、古くから「奥の海」といわれる景勝地として有名です。湾内ではカキの養殖が盛んです。湾奥部は汽水域となっています。



Specification

諸元

湾口幅：0.46 km

面積：7.4 km²

湾内最大水深：3.9 m

湾口最大水深：3 m

閉鎖度指標：7.69

備考：環境基準類型指定水域

Location

範囲または位置

宮城県渡波漁港佐須浜 1号防波堤、同防波堤先端と長浜防波堤先端を結ぶ線、長浜防波堤及び陸岸により囲まれた海域。

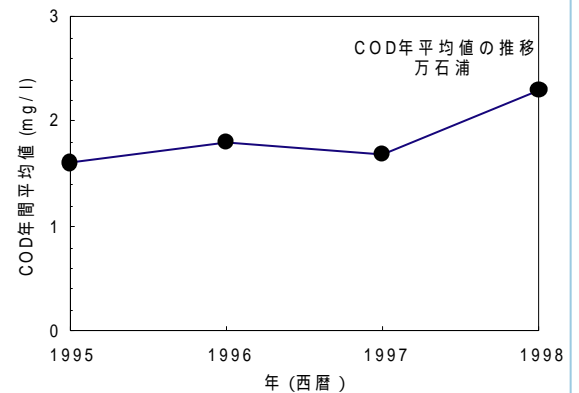


環境

万石浦は、牡鹿半島の付け根に穴をあけたような形をした海跡湖です。小河川が流入するのみで、潮汐の干満変動により、湾口である渡波港を経由して、石巻湾の海水が流出入しています。

潮位差は大きい時で 2m 程度にもなります。

水質は、汽水で、「富栄養湖」の湖沼型に分類されます。



自然

万石浦は、渡波港の奥に位置し、半島の山々に囲まれた巨大な入海で、万石浦を含めて、佐須浜地区の尾崎から葦崎間は「県立硯上山万石浦自然公園」に指定されています。

万石浦内には、アマモ場が発達し、カレイ類やメバルをはじめとする石巻湾の漁業を支える水産資源の保育場となっています。

また、水深が最深でも 3m 程度と浅いため、干潮時には潮干狩り場としても利用されています。



潮干狩り風景

文化歴史

万石浦の名は、仙台二代藩主伊達忠宗の「干拓すれば優に一万石の米がとれる」との文句が由来となっています。

古くは、製塩業が発達し、塩田跡地も一部残っています。

産業

万石浦は、カキ、ノリなどの養殖が盛んで、万石浦で生産された稚貝は、広く日本全国のカキ養殖の種苗として供給されています。

また、観光拠点としての整備も進められており、1613年に政宗公によって建造され、支倉常長ら一行を乗せた慶長使節船を再現し展示した、サン・ファン・パウティスタパーク、万石浦を望む約2万坪のレジャー施設であるベイパーク石巻等の整備が進められています。



サン・ファン・パウティスタ